

## 国連軍後方司令部 司令官交代式 *The United Nations Command (Rear) Change of Command*

January 30, 2018

By Yasuo Osakabe  
374th Airlift Wing Public Affairs

国連軍後方司令部の司令官交代式が1月29日、横田基地で行われ、前任のオーストラリア空軍のマイケル・W・ジャンセン大佐から、同豪空軍のアダム・ウィリアムズ大佐に指揮権が継承された。

式典執行官は、在韓国連軍・米韓連合軍・在韓米軍司令官であるヴィンセント・K・ブルックス陸軍大将が務めた。

ブルックス陸軍大将は、式典の中で「本日、ここに集った各国の代表者に感謝の意を表したい。ここに集う日本、オーストラリア、オランダ、タイ、カナダ、イタリア、ニュージーランド、フィリピン、英国、米国の代表は、国連軍の構成組織、また国連軍後方司令部の実績を象徴し、まさしく組織の重要性を雄弁に語っている」と述べた。

また、ブルックス陸軍大将は、国連軍司令官としての展望を語った。

「国連軍司令官として、優先事項の一つに、国連軍の重要性および必要性を維持していくことを掲げていた。つまり、重要性と必要性をより強化すること。ジャンセン大佐の指揮のもと、国連軍後方司令部は、その優先事項を満たす最前線に立っていた」

オーストラリア空軍ジャンセン大佐の指揮のもと、国連軍後方司令部は昨年の7月から10月のあいだ、1950年代以来の多忙な時期を迎えた。

日本における国連軍の主な代表として、国連軍後方司令部は朝鮮半島の休戦時には日本国内における国連軍地位協定を維持し、交戦時には、日本において国連軍司令部の活動を支援し、韓国に軍力を送る支援を担う。

新司令官就任挨拶の中で、オーストラリア空軍ウィリアムズ大佐は「この特別な部隊の指揮を任命されたことを光栄に思う。地域内において支援が必要となった際には、我々は一体となって、任務を達成するために全力を尽くし、連携関係および運用成果のレガシーを継承していきたい」と述べた。



1月29日、横田基地で執り行われた司令官交代式で、在韓国連軍・米韓連合軍・在韓米軍司令官のヴィンセント・K・ブルックス陸軍大将(左)から司令旗を受け取る国連軍後方司令部新司令官のアダム・ウィリアムズ大佐(右)。

国連軍後方司令部は歴史的に米陸軍大佐によって指揮されてきたが、2010年以降はオーストラリア空軍大佐が継承し続け、今回で連続5人目のオーストラリア空軍大佐の司令官が就任した。



就任挨拶を述べるオーストラリア空軍アダム・ウィリアムズ大佐

国連軍後方司令部は朝鮮半島の休戦時には日本国内における国連軍地位協定を維持する。